

OB 会会員の皆様へ

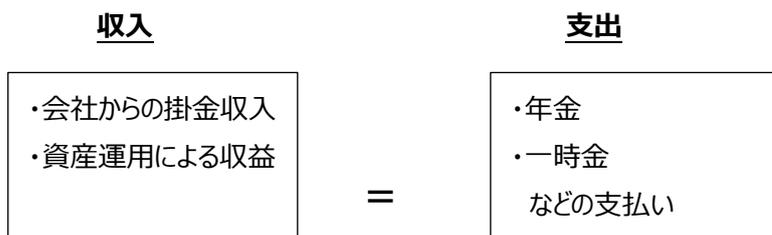
皆さま、こんにちは！ 理事（AIG 企業年金基金勤務）の佐々木です。

企業年金に関する情報発信第 2 弾です。（第 1 弾は 2022 年 8 月に発信しています）

今回は、企業年金における「資産運用」について簡単にご説明します。

企業年金制度は、収入と支出がイコール（**収支相当の原則**）になるよう運営するのが原則です。

以下の図をご覧ください。



まず、将来にわたる支出額を見積ります。加入者や受給者の死亡率、加入者の給与の昇給率、退職率、年金・一時金選択率など様々な基礎率を用いて、年金アクチュアリーが将来支出される給付額を統計的数理的に見積り計算し、それを現在価値に割引いて算出します。

そして、将来の支出見積り額が算出できたら、それに見合うだけの収入額を見積ります。**企業年金の収入は会社からの掛金と運用による収益だけ**です。そこで、次に、運用収益がどのくらい得られるかを見積ります。運用収益の見積りは**予定利率**という言い方で表されますが、予定利率は運用マーケットの状況などを勘案して合理的に決められます。

高度成長期には予定利率が 5.5%という時代が長く続きましたが、ご承知の通り今の日本で 5.5%の運用収益を期待するのは現実的ではないので、**現在の AIG 企業年金基金の予定利率は 2%**です。

つまり、会社からいただく掛金は資産運用で 2%の運用収益をあげることを前提に計算されています。

したがって、我々基金には 2%の運用収益を上げることが責務として求められています。

勿論、2%をはるかにしのぐ収益を目指す運用を行うことは可能ですが、高い運用利回りを追求すれば、うまくいかない時には損失が発生するリスクが高まります。ハイリスクハイリターンの話です。

**企業年金は極めて長期にわたる制度**なので、制度を安定的に保つために短期での運用収益の追及は行わず**長期運用を基本**としています。

そこで、2%の運用収益を長期にわたって安定的にあげるために、基礎率や運用マーケット環境の見積りに基き**政策アセットミックス**（運用ポートフォリオ）を策定しています。

現在の政策アセットミックスは次の通りです。政策アセットミックスというのは、この割合にしたがって年金資産を運用し、2%の運用収益をあげることを目指すものです。

債券（生保一般勘定含む）：65%、株式：30%、オルタナティブ：3%、短期資金：2%

いわゆるファンドマネージャーのように、日々、マーケットの変動を見ながらの運用は行っていません。

**現在の企業年金の資産運用は債券運用を中心にし、長期、分散投資を基本**としています。

尚、前提となっている基礎率や運用マーケット環境も時の経過とともに変化しますので、この政策アセットミックスも約5年に一度くらいの割合で見直しをしています。

尚、運用に関することも含めAIG企業年金基金の運営については、以下のHPで開示していますので、あわせてご参照ください。

<https://www.nenkin-kikin.jp/aig/gaikyo/index.html>

次回は、2023年夏ごろに情報発信をさせていただきます。

理事（AIG企業年金基金） 佐々木健司